

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 19	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 都市と共存できるナシ栽培技術の検討と組み立て	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 横浜では特産のニホンナシを「浜なし」として商標登録し、高品質安定生産に取り組んでいるところです。しかし、住宅等との混在化によって、農薬散布時のドリフト、堆肥や肥料の臭い、機械から発生する騒音等に起因する近隣住民とのトラブルは増加の一方であり、高い生産技術と経営感覚を持つ、意欲ある生産者であっても、栽培を諦めたり、他果樹への転換を迫られる事例は多く、そのような状態を見せられていることで後継者の経営継承の意欲は低下しています。このことが、販売は好調であっても栽培面積が減少する一因になっています。 多くの課題がある中で、品質を維持しつつ防除回数の削減を図る技術、たとえばハダニに対する天敵の利用、機能性展着剤の効果的な使用、防除効果を高めたり持続させるような農薬の混用、選択などについて検討していただき、一連の技術としての組み立てをお願いしたいと思います。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課、生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) V-1 (4)栽培管理(防除、収穫等)自動化への挑戦    イ 自動防除機の実用性検討		
対応の内容等	ナシ栽培において農薬散布に代わる新たな防除技術があっても、直ちに現地に導入するには、現地実証事例が少なく、技術導入への知見もあまりない状況にあります。その一方で、野菜栽培のような総合防除技術(IPM)の取り組み試験を実施するにも本県ではなかなか難しい状況ではありますが、いち早く技術普及するためにも展示ほのような取り組みが可能か、まずは担当者間で検討したいと考えております。そのうえで農研機構、あるいは近県の取り組み状況について情報収集し、必要と考えられれば随時情報を提供したいと思います。 なお、ジョイントV字トレリス樹形の利用による農薬散布量の削減および省力化については、樹形による付着性の向上と散布量低減の削減の可能性なども含めて、上記課題を設定して検討中です。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			